

1. 会社概要（基本情報）

会社名	なかのアセットマネジメント株式会社	
所在地	住所	〒103-0026
	電話	03-6661-0508
	H P アドレス	https://nakano-am.co.jp/
代表者	中野 晴啓	
金融商品取引業登録番号	3406	
登録年月日	2024年2月7日	
協会会員番号	A116	
業務開始年月	2024年4月25日	
資本金	6.775億円	
受付窓口	管理部	
電話	03-6661-0508	
E-mail アドレス	ML_kanri@nakano-am.co.jp	

2. 運用の特色（投資哲学、運用スタイル等）

当社の投資哲学は「クオリティ・グロース」です。 長期にわたり成長が続き、かつその確度が高い企業に投資する哲学です。企業のクオリティは、「成長率の高さ」、「利益率の高さ」、「長期の参入障壁」の3点を兼ね備えた企業と定義しています。 独自のボトムアップ調査を行い、独自の長期の業績想定に基づく理論株価を算出し、理論株価と株価水準との乖離の大きさを投資判断をします。投資先との対話を重視して、対話による企業価値の向上を目指します。 より具体的な特徴としては以下の通りです。 •ポートフォリオの平均ROEを高位安定させる運用を行い、長期における複利効果の獲得により、絶対リターンを目指します。 •厳選されたポートフォリオは30銘柄以内で構成されています。 •“長期”“厳選”の観点から銘柄の入れ替えペースは低水準を保ちます。
--

3. 投資に関する意思決定プロセス

1. 計画・方針の策定

・運用方針の決定: 投資委員会が、運用ガイドラインの承認や、運用担当者の任命、運用計画書の承認を行います。

・計画書の策定: 運用部が、四半期ごとに翌四半期の運用方針や新規・売却候補銘柄を含む運用計画書を作成し、投資委員会に報告・承認を受けます。

2. ポートフォリオ構築プロセス

・ユニバースは時価総額、流動性、成長性、収益性やボラティリティなどの項目からスクリーニングを実施し200社を選定します。

・ユニバース200社は全て対面取材を通じて調査をし、事業内容を深く理解した上で、業績の想定を行い、理論株価を算定します。

・厳選されたポートフォリオへの採用は、理論株価で割安なクオリティ・グロース銘柄を投資委員会で議論した上で決定します。

3. 実行と牽制

・投資判断: 運用担当者は、承認された運用方針に基づき投資判断を行い、トレーディング担当者に売買注文を指図します。

・発注前チェック: 管理部トレーディング担当者は、発注前に信託約款や運用計画書との齟齬がないかを確認するトレード・チェックを実施し、ブローカーへ発注を行います。

4. 運用体制

運用部が運用業務全体の包括的な責任を負い、運用担当者を擁します。運用担当者は、投資委員会で承認された運用計画書に従い、ポートフォリオ決定、リスク管理、資金管理を考慮して投資判断を行い、トレーダーに売買指図を出します。

投資委員会において運用方針の決定、四半期ごとの運用計画書の承認、および運用担当者の任命を行います。

プロダクトガバナンス委員会で運用ガイドラインの策定協議、および月次での運用レビュー（パフォーマンスや運用計画の実施状況）の審議または報告を受けます。

管理部が日次で運用モニタリングを実施し、運用部からの売買注文指図に対し、発注前トレード・チェックを行い、信託約款や運用計画書との齟齬がないかを確認します。問題がある場合はコンプライアンス部へ報告・検証を依頼し、不正や法令違反を防ぐ内部牽制を担います。

5. 運用金額

運用する公募ファンドで65億円となります。（2025年9月末時点）

6. 運用実績

お問い合わせください。

7. アピールポイント

当社の運用における「徹底的な深掘調査（ディープリサーチ）とエンゲージメント」は、「クオリティ・グロース」哲学を実践するための中核的な戦略であり、情報の質と企業との対話に最大の強みがあります。

1. 徹底的な深掘調査（ディープリサーチ）

当社は、真の企業価値を見極めるため、極めて詳細な調査を行います。そのために業績予想は長期的視点に立ち、10年先までの業績を「単価」と「数量」に分解して予測し、詳細なモデルを作成します。調査活動はユニバース企業を中心に、年間延べ約800社に対して1対1の直接取材を実施し、徹底的な調査報告書を作成します。

企業価値評価には、RIMを主体としつつ、他の評価手法も併用して理論株価の頑健性を担保します。

2. エンゲージメント

エンゲージメントによって企業との建設的な対話を通じ、株主価値の創造を促進します。

対話の内容は収益性（単価・数量成長の促進）や効率性（資産の在り方の提唱）、資本政策（最適資本構成の議論）など、多岐にわたる経営課題について議論を深めます。

エンゲージメントは、ディープリサーチと並んでポートフォリオのPBR（株価純資産倍率）を低下させないために不可欠な要素と考えています。